

神は別の生き方も作られたのか？

その質問に答える為には、まず、私達は神に作られたのか、という質問を自分自身に問わなければならず、その答えはイエス！である。それでは同じ質問を拡張して、神は私達一人一人を作られたのか、と質問しよう。またしても答えはイエス！である。私達一人一人は、人種、信仰、民族の背景や生き方に関わらず、神に作られた。

では初めの、神は別の生き方も作られたのか、という質問に戻ろう。この件について私は、ホモセクシユアルとしての生き方を取り上げるが、それは、ちょっとそれを口にするだけで、エイズとの関係のせいで、周りの感情が空に届く程に動かされてしまうものだからである。周りを見渡せば、この恐ろしく死に至る病気によって、社会がバラバラに引き裂かれているのがわかるだろう。人々は死んでいつている！人々に感染している！人々は心配している！

神ははつきりと聖書の中でホモセクシユアルの行為を取り上げ、それを非難している。何故、イエス様は結婚を神聖な契約と呼んだのか？何故、男は家族から離れ、女も家から出て、二人がいつしよになるのか？何故、神は、神の創造とい

う畏れ多い権利を、性交という形で私達に分けてくださるのか？それは、神が私達を愛し、私達の幸せを望み、健康で神聖であつて欲しいと願っていらつしやるからである！それが神の私達すべてへの方針なのだ。

ホモセクシユアルとしての生き方は、その人を神から遠ざけてしまつて、神の方針から外れてしまつていく。私達は間違つた感情を持つたりして、害のある行動を決して許してはならないが、しかし、その人自身をとがめてはならない。その人のホモセクシユアルの行為は神の方針への拒否であるが、その人自身は、神のイメージに似せて作られたのであるから。

そんな人々は、生まれつきホモセクシユアルで、変える事は出来ないものであるか？私達は皆生まれるながら罪人であるが、ただ神の恩寵によってのみ、罪が取り除かれる。ある人々にとっては、遺伝や環境、家族の歴史、薬の不均衡で、それが難しい。ホモセクシユアルの生き方は、神の基準からすれば、罪深い生き方なのである！しかしホモセクシユアルの行為に対して、あざ笑つたり、軽蔑したり、名指したり、間違つた導き方をしては

ならない。本当のクリスチャンの熱意からすれば、ホモセクシユアルの人達にカウンセリングし、応援するグループを作り、適当な健康管理をし、愛して、彼等が害のある行動を変える勇気を与える事だ。

アルコール中毒防止会は、24時間体制のカウンセリング、医療的なヘルプ、そして愛を持って中毒者へ手を差し伸べ、きわめて成功しているが、そのプログラムは中毒者に、ただちにお酒は止めるよう要求している。それと同じ様な助けと試みが、ホモセクシユアルの人達にも与えられなければならない。

私達クリスチャンの信仰の基礎にある原理は、愛する神からの許しを信じる事であり、私達は皆罪人であるから、絶えず神の許しを求めているなければならない。けれどイエス様はマグダラのマリヤを戒めた時、とてもはつきりと率直におつしやつた。あなたの罪は許された、と彼がおつしやつた後、付け加えられたのである。行きなさい、そして二度とするな、と。

エイズと戦つには、私達は教育を、それはコンドームを配布するという事ではなく、禁欲と貞潔を教える教育を、しなければならない。ホモセクシユアルの人々を救つに

は、軽蔑でなく、愛を与えるべきである。絶望でなく希望を、恐怖でなく情けを。しかし同時に私達は、ホモセクシユアルの生き方をする人々に、神の意思に沿う様な生き方に変える様、働きかけて行かなければならない。エイズは神から人へのこらしめではない。エイズとは、神によるすべての人々の為の方針に、人が背いてしまつた結果なのである。

モリー・ケリー



私たちが別の生き方をする時、神からの大きな祝福をいただける

意義を捜し求めて



私は高校を卒業したばかりの頃、悪い仲間と親しくなりました。その当時私は、どこかのグループに所属してなければならぬという強迫観念を強く感じていました。私はかなり反抗的な若者で、麻薬や酒などの変なものをやっていた多くの人々に本当に魅力を感じていました。

当然の結果として、私は妊娠しました。母にそのことを打ち明けると、母は二つの選択肢を与えてくれました。それは未婚の母の施設に行くか、中絶をするかのどちらかだったのです。それで私は「家族計画連盟」という団体のお世話で中絶を受けることに決めました。私の相手は両親に知られたのを知るとすぐ、私から去って行きました。私は本当にショックを受けていました。あのとき母の助けがなければ、自殺していたかもしれない。私は一生をすっかり台無しにしてしまった思いでした。私はただ、早く片を付けて、そのことを忘れてしまいたかったのです。

中絶は、その最中も、その後も、とても辛い経験でした。かなり長い時間、とても激しく子宮

が収縮しました。ある女性は、中絶は出産よりも辛かったと言いました。全てのこと私が私にとっては悪夢のようでした。私は家に帰り、今回の母の手助けに感謝しました。母は父を説得して、大学へ進学したいという私の計画を続けさせてくれさせたのです。四年後、私は（まだ反抗的な状態のまま）また妊娠しました。しかし、中絶を考えるとさえ嫌になつていました。私は大学を中退し、両親の家を出て、アパートで生活をしていました。私は身体の中で育っている子どもを育てる決心をしました。友人や、印刷屋を始めるために同じ町に越してきていた弟は、私の選択に賛成してくれました。しかし、親類は最初は賛成してくれませんでした。彼らは、私が子どもを養子に出すことを考えるように望んでいたのです。

妊娠は私にとってプラスの経験で、出産はとても素晴らしい経験でした。ギルはもうすぐ八歳になります。私たちは本当に沢山のことを一緒に経験してきました。

二度目の中絶に至った事情はかなりひどいものでした。私は男性と暮らしていました。彼の子を妊

娠した時に、彼には別に付き合っている女性がいて、その女性と肉関係があることを知りました。

事態を把握して、私はとても混乱しました。適切な決断が全くだけない状態でした。考えついたことは、ただどうすれば負担を軽くできるかということだけでした。それで、中絶する決心をしたのです。彼は私に中絶させたくありませんでした。子どもの父親になりたかったのです。しかし、私は特にこのような状態で子どもを生みたくはありませんでした。その後長い間、私は彼や男性性に対して嫌悪感を持ち続けました。彼は中絶を受けるのに付き添ってくれました。その時は私よりも彼の方が辛かったと思います。

二度目の中絶は、初めての時ほど辛くはありませんでした。短いスライドの上映がありました。「何か質問はありませんか。」と尋ねられ、それから手術を受けました。あまり痛みはなく、終わって本当にホッとした思いでした。私はその中絶のことを誰にも話さず自分の心の中にしまいいこみました。

私はその土地を出て、やりなおしたいと思っていました。それでおよそ一年半後、十分なお金を蓄めて、息子とニューメキシコ州のサンタ・フェへ引っ越

しました。

車を運転しながら、私は心の安らぐ家庭を見つけたという思いを強く持ちました。心底私は死んでしまいたいので、癒しが必要だと感じていました。しかし、それを一人ではできないことを私は知っていました。他の何かが必要でした。そしてそれはキリストだったのです。ニューメキシコに移って三、四ヶ月後、私はイエス・キリストのことを勉強し始めました。

私は牧師さんが中絶について話し、中絶反対の文献を配るまで、中絶に関する事実を実際全く知りませんでした。私はそこに座って泣き、殺した二人の子どもに対する悲しみに打ち拉がれました。

数日後、私は中絶反対の事務所に行き、中絶に食い物にされた女性たちのことを知りました。私は会に出席し始め、私の二回の中絶に対して精神的な癒しを少し経験しました。この会の間、私の心の中に、あの中絶が蘇ってきましたが、その時は心を癒してくださったイエス様が一緒にいた。私が天国にいる子どもたちのもとへ召されるまで、子どもたちの面倒をみてくださるようになり、イエス様に二人を捧げました。イエス様は私を受け入れ愛し許してください、今までにたくさん癒しを与えてください

ました。（肉体的に、精神的に、宗教的に）中絶からの癒しが得られる唯一の方法は、イエス様を通して以外にはないことを、やっと私はわかりました。

私がイエス様を知る前に選んだ道は間違った、罪深い、ひどい。しかし、過去の私は、今はもういいのです。

中絶しようと考えていたり、すでに中絶してしまった女性がいたら、私の過去の経験を通して、その女性の相談相手になってあげたいと思います。そして、中絶問題について事実を解明する手伝いをしたいと思います。中絶が合法化されているために起こっている不幸な出来事を人々に教えたいと思います。

イエス様に会う前は、私は中絶に賛成でした。というのは、女性性は自分の身体を自分で管理する権利があると思っていたからです。私は長い間、中絶で受けたたくさんの傷や痛みを何とか隠してきました。しかし、私の人生の他の分野での代償は大変なものでした。

この文があなたの方のお役に立てることを願っています。読むのは大変だと思いますが、私が見た道は、誰にもたどって欲しくない長くつらい道だったのです。

十代の性

(39)

質問：私は女の子です。学校の男子友達の一部に入った時、私はものすごく恥ずかしくてムカムカしました。部屋の壁には裸同然の女性の写真が貼ってありました。私は男の人の裸の写真を部屋の壁に貼るなんて考えられないのに！



平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。

(マザー・テレサ)

答え：もうあなたも男の人と女の人は違うということがわかったでしょう！女性がセックスするまでに気持ちを高揚させるのには、暖かくて愛の溢れた状況に朝からいることが必要ですが、男性は早く性的に興奮します。男性と女性がお互いの関係から求めるものも、違うこともあります。男性は強い性欲があり、男女の肉体関係に焦点を置きがちで、また性欲を満足させるために積極的です。女性の性欲は、女性の性質に統合されています。女性はそう早く興奮しないし、男性の裸の写真を見ても、その魅力的とは思わないのです。女性はそのより愛や親近感、安心感や会話を大切にしますので。

女性は性交をそういう関係を築く方法として見ているので、男女関係において、どちらにも相手の要求を満たすために使われたり利用されたりしないように気を付けなければなりません。時々、男の子は、セックスをしたが為に女の子に「とても愛している」と言います。時々、女の子は男の子の愛を得る為に、誘惑しようと自分の身体を使ったりもします。このような関係では、誠実さや愛情や相手への尊重が欠けているので、うまくいきません。

女性は性的興奮の要素の違いを見れば、何故多くの男性は女性のポスターを貼り、女性は貼らないのかがわかるでしょう。けれど、だからといってそれで正しいという訳ではありません。このような写真は奥深くの本能を刺激し、不健康です。男性はセックスをもっと大人として、意義のある男女関係として見るようにしなければなりません。そして女性とセックスの美しさを尊ぶようにしなければなりません。あなたの場合、その友達に、あなたへの礼儀と尊重として、あなたを部屋に呼ぶ時は少なくともそういう写真をすべて取り除くようにはつきり言うべきでしょう。

誰が独善的？

中絶反対運動はよく「独善的」である、と非難される。この言葉の意味は滅多に定義されないし、中絶やホモセクシャルの主唱者に対して滅多に使われない。

それは何故か？公平な見方をする人なら誰でも、「独善的」「熱狂者」「極端論者」などという言葉が、この頃は片手落ちに使われていることを、認めざるを得ないだろう。

もし人間の胎児が、中絶から合

法的に守ってもらうに足るなら、それを守ろうとすることに、本質的な「独善」は全くない。罪のない生命を、無慈悲な殺しから守ろうとすることは、私達はただ務めを果たしているだけである。真実を言えば中絶反対の立場は、全般的に独善的の全く反対なのである。それどころか中絶反対者達は他の人達と同じように自分が罪人だとわかっていく。彼らは神の法で裁かれるの

を待っているし、自分達がそれに達しないこともわかっていて。だからこそ彼らは慈悲を請う為祈るのである。



本当の独善というのは、自分に罪があることを認めないことにある。人間が考えた法律より一段高いものと考えられる道徳律よりも自分の食欲や欲望を優先させ、道徳律を支える者を非難する人が、独善的なのである。

今日の本当の熱狂者や狂信者というのは、中絶や性の放任を「権利」と呼ぶ人達のことである。そういう人達は、自分の性欲や自分の利益だけを、善悪を計る基準にしている。彼らは自分

達を超えた基準があることに気が付かない。彼らは望まれない子どもを残産に殺してしまうことさえ「権利」と呼ぶのだから。

それはねじ曲がって、「自由の立場と呼ばれ、それを拒否する立場は、非寛容的」と非難される。しかし、一番基本的な人間の血と肉の権利、つまり生きる権利を否定することが非寛容でなくて、何が非寛容だというのだろうか？

現代科学によって胎児の繊細で複雑な人間性が私達に判りやすく解明されたにもかかわらず、現代技術は胎児を守り育てるべき子宮の中の胎児を殺してしまう方法を生み出してしまった。現代物理が原子の神秘を解明したと同時に大量殺人の恐ろしい武器を作ってしまったのと同じように。現代の間は、その素晴らしい発見を逆用してしまっている。本来の寛容こそ、簡単に殺人が行えるようになったこの時代に、緊急に必要なのだ。

中絶と「同性愛の権利」を支持する人達こそ、その反対者に対して寛容ではない。彼らは理不尽に怒っていて、どの反対者とも真っ向から向き合わないし、自分達の欲求に反対する人達を「偏狭頑迷」としてしまふ。実際彼らは、自分達が犠牲者だという主張を退けられることによる犠牲者だ、と犠牲者の意識でいる！

(4ページへ)

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円
一万円 五千円 一千円

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいいのちを大切に育みましょう。

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

一雨ごとに春が近づき、生命の息吹があちこちに感じられる頃となりました

サンフランシスコ市で同性愛の方々の結婚が認められるということがインターネットで流れました。様々な人権が要求されています。同性愛の方々に人権がある、それは確かなことです。でも人権があるということと同性愛同志の結婚が認められるということはちょっと違うのではないかと思うのです。段々、私たちの社会は『なんでもあり』になって来ているのではないかと心配しています。

性教育に関しても、この『何でもあり』が幅を利かせて来ているように感じます。そして、まわりの大人たちもあなたも若者達の気持ちを理解しているかのような言い方で言います。「安全なセックスを!」と。私たちは若者達に自分を大切にして下さいと伝えて行きたいのです。この世にたった一人しかいない大事な自分を大切にしてほしい。そして、そこから自分を自制する心も相手への思いやりも育って行くでしょう。

プロ・ライフ資料にビデオ『エイズ時代の性倫理』があります。若者と産婦人科医の質疑応答からなるこのビデオは、今、皆様の近くにいる若者達の質問でもあります。近くの学校にこのビデオのことをお知らせ下さいませんか?

3月25日(27日まで)順天堂大学で、第74回日本衛生学会の総会が開かれます。初日にミニシンポジウムも開かれるとの事で、プロ・ライフも出席致します。その時の様子をまた次号でお知らせ致します。

前号に同封しましたちらしでお知らせ致しました内閣府へのオピニオン、お送り頂けたでしょうか? もし、お構いなければ、事務所の方にもお送りいただければ、この紙面を通して、皆様と分かち合いたいと思います。よろしくお願ひ致します。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)

(3ページから)

けれど何が偏狭頑迷かといえ、それは自分に反対する立場も正当であり得ることを認められないことである。自分の立場が古い伝統に刃向かっている場合は特にそうである。「新道徳」を支持する人達が私達に求めているのは、何千年に

「何があっても二度と繰り返さない」

私は正看護婦です。結婚して二年目で、とても欲しかった赤ちゃんを流産してしまいました。その翌年の十一月、私は又妊娠しました。私達は準備万端で心からこの時を待っていたのです。妊娠16週目で私は異常がないかどうか調べる検査を受けました。その日のことを、まるで昨日の様に覚えています。夕食の直前にお医者さんから電話があり、検査の結果が陽性だったと知らされたのです。

夫は楽観主義でしたが、私はスタスタになりました。ソノグラムを受け、赤ちゃんが脊髄破裂だと判明したのです。一人きりで街の郊外から長い道を運転して帰りながら、これまでにない程泣きました。脊髄破裂を持った大人の患者達を訪問看護した経験があるので、この厳しい社会へ、苦しむために子どもを産んでよいのだろうか?

夫と私は決心して中絶しました。それは小さな女の子でした。私達は泣きまじった。あの時からしばらく経ちましたが、これからもずっと毎日私の脳裏を去らな

渡る道徳の掟を放棄し、私達の良心を無視し、私達には厭わしく不可能としか思えない新しい流儀に従う、ということである。中絶と同性愛は破壊的で墮落的である。それら支持者達が何を言おうと何を見せようと、私達を説得することは出来ない。

ジョセフ・ソブラン

いでしよう。

人は「中絶は簡単な解決策だ」と言います。でも決してそうではありません。神は私達を許し罪を忘れて下さるけれど、私達を精神面での苦しみに耐えさせることで、人間性に反して犯した罪を忘れさせないようにしていらつしやるのだと思います。他の人達には私達の例をもって教えていらつしやるのでしよう。もう、何があっても、私は二度と繰り返しません。

今二人の女の子がいます。この子達は喜びを運んでくれます。この子達を産むことで、初めの娘を取り戻せるかも知れないと思っていました。そのうちにはありませんでした。この子達はこの子達で別なのです。

私は窓に看板が掛かっているのを見た事があります。「中絶をなくそう」。この一言に尽きます。いのちの贈り物程貴重なものはなく、神から頂く最高のものは子どもなのです。

(ある女性の言葉)